

試験問題サンプル

一般問題	5 肢択一式		解説
<p>原発性骨粗鬆症の診断について誤っているのはどれか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 低骨量をきたす骨粗鬆症以外の疾患を認めないことを前提とする 2. 続発性骨粗鬆症の原因を認めないことを前提とする 3. 骨密度は原則として腰椎または大腿骨近位部骨密度とする 4. 腰椎または大腿骨近位部での測定が困難な場合は、踵骨骨指標でも可とする 5. 脆弱性骨折がなく、骨密度が -2.5SDより大きく -1.0SD未満の場合、骨量減少と診断する 	<p>正解4</p>	<p>原発性骨粗鬆症の診断において、低骨量をきたす骨粗鬆症以外の疾患および続発性骨粗鬆症の原因を認めないことを前提とする。骨密度は原則として、腰椎または大腿骨近位部骨密度とする。脆弱性骨折なしでは、骨密度が -2.5SDより大きく -1.0SD未満の場合、骨量減少、YAMの70%以下または-2.5SD以下の場合、骨粗鬆症と診断する。踵骨の骨指標は原発性骨粗鬆症の診断には用いられない。</p>

臨床問題	5 肢択一式		解説
<p>78歳女性。橈骨遠位端骨折を受傷して来院。腰椎（L1～L4）、全大腿骨近位部の骨密度は、それぞれYAMの72%、75%であった。既往歴は高血圧のみであり、慢性腰痛のため1ヵ月前に近医で行った脊椎単純X線検査では、既存椎体骨折は認められなかった。この患者への対応として正しいのはどれか。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨量減少と診断する 2. 治療の必要はないため、1年後に再検査を行う 3. 栄養療法のみで十分である 4. 生化学検査を行い、薬物治療を検討する 5. FRAX®の骨折確率を計算し、治療方針を決定する 	<p>正解4</p>	<p>椎体骨折または大腿骨近位部骨折以外の脆弱性骨折の既往ありでは、骨密度がYAMの80%未満の場合、骨粗鬆症と診断する。薬物治療は必要であり、血清カルシウム、腎機能、骨代謝マーカーなどを評価し、薬物選択を検討する。脆弱性骨折の既往なしでは、75歳未満で、骨密度がYAMの70%より大きく80%未満の場合、FRAX®の10年間の主要骨粗鬆症性骨折確率が15%以上であれば、薬物治療が開始されるが、これは75歳以上では適用されない。</p>